

平成25年2月19日(火) 18時~19時

福島県立医科大学  
11号館(臨床講義棟)  
第二臨床講義室

# 臨床腫瘍セミナー

## 「がん患者の看取りを問いなおす

## —在宅緩和ケアを支える死生観と社会的課題—

静岡大学  
創造科学技術大学院  
農学部  
教授

# 竹之内 裕文先生

### 【講演内容】

近年の日本社会では、在宅ケアへのシフトチェンジが推奨され、これを実現するための各種取り組みが進められています。しかし自宅を拠点として、地域社会での豊かな「生と死」を実現するためには、看取りの「医療化」や「世俗化」という社会的動向を踏まえつつ、「在宅ケア」を支える人間観や「看取り」を支える死生観など、生老病死の基本理解を確認しておく必要があります。こうした見通しのもと、当セミナーでは、北欧諸国の動向も参照しつつ、在宅での看取りを支える死生観の問題と社会的課題について、皆さんと一緒に考えたいと願っています。

### 【講師紹介】

平成3年3月に東北大学理学部数学科を卒業し、同年4月、文学部(哲学)に学士編入学する。その後、東北大学大学院文学研究科の修士課程、博士課程へと進学し、平成14年7月に博士(文学)を取得。東北大学大学院文学研究科助手、静岡大学農学部准教授を経て、平成22年4月より静岡大学創造科学技術大学院・農学部教授。

平成15年4月、爽秋会理事長(当時)の故岡部健医師とともにタナトロジー研究会を立ち上げ、在宅緩和ケアの現場と連携して仕事を進めてきた。さらに平成23年4月から平成24年4月まで、スウェーデンで在外研究に従事し、北欧ケアについて学びを深めてきた。主な編著は『どう生き、どう死ぬか——現場から考える死生学』(弓箭書院)、『七転び八起き寝たきりいのちの証し——クチマウスで綴る筋ジス・自立生活20年』(新教出版社)。

- ◆がん治療に携わる医師及びコメディカルを対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆本セミナーは「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」事業の一環となっております。
- ◆本学大学院生は、大学院授業要項で規定する共通必修科目(規定の8)に該当します。

〈次回開催のお知らせ〉平成25年3月19日(火) 18時~19時 仙台医療センター 渡邊 隆紀 先生

〈問い合わせ先〉 福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター がんプロフェッショナル養成支援室  
TEL: 024-547-1806 (内5112) mail: yamadaa@fmu.ac.jp